

北前船

KITAMAE BUNE in OGIYARD

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

北前船寄港地・船主集落

江戸時代、経済の大動脈であった北海道・東北・北陸を結ぶ西廻り航路。主にこの航路を利用した商船は『北前船』と呼ばれました。北前船は、船主自身が寄港地で仕入れた多種多様な商品を、別の寄港地で販売する買い積み方式により利益をあげたことから、「動く総合商社」と形容されます。当時北海道で大量に獲れたニシンは、西日本では肥料として高く売れ、西日本の古着は東日本では高価な商品となるなど、北前船での商いは、当時の国内の地域間格差によって大きな利益を生み出し、その富は莫大なものとなったのです。

明治2年、北海道に開拓使が設置されると、各地から開拓民が押し寄せ、人口が急増します。北前船は、従来の交易に加え、生活物資を運ぶという新たな役割も担うようになりました。

小樽港は、北前船の重要な寄港地として発展を遂げていき、北前船主たちは次々と小樽に進出、大規模な営業倉庫などを建造して事業を拡大していきます。船主や問屋たちの社交場として、ぎわう料亭、商家や蔵などの大規模な建造物、そこには、農村や城下には見られない、商人たちの築いた町がありました。また、神社仏閣への寄進や、船給馬、船模型など、航海の安全を祈願した奉納物も多数残され、船主や問屋たちの篤い信仰を伺うこともできます。

日本海の荒波を越え、一攫千金を夢見た男たちが、人・物・文化を運んだ『北前船』。北海道にやってきた人たちの生活を支え、小樽の発展の基礎をつくったとも言えるのです。



日和山



旧北前地区倉庫群(旧増田倉庫)



旧北前地区倉庫群(旧広海倉庫)



旧北前地区倉庫群(旧右近倉庫)



旧北前地区倉庫群(旧大家倉庫)



旧北前地区倉庫群(旧小樽倉庫)



旧魁陽亭



住吉神社奉納物



船絵馬群
(恵美須神社、龍徳寺金比羅殿)



北前船関係古写真



西川家文書



KITAMAEBUNE in OTARU

船乗りたちが日和を見た
この場所から航海が始まる



小樽

日和山

北前船の船乗りたちが出航前に日和を見た場所。
北海道で2番目に灯台が建設され、北前船航海の重要な目印ともなった。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～

江戸時代、経済の大動脈であった北海道・東北・北陸を結ぶ西廻り航路。この航路を利用した商船は「北前船」と呼ばれ、船主自身が寄港地で仕入れた様々な商品を、別の寄港地で販売し利益をあげ、「動く総合会社」とも形容されます。地域の文化をも運びながら、一度の航海で莫大な富を生み、港や周辺集落にも繁栄をもたらした北前船。日本海の荒波を越え、男たちは一攫千金を夢見たのです。



KITAMAEBUNE in OTARU

物流の繁栄がわかる
大規模な倉庫群



小樽

旧小樽倉庫

明治23(1890)~27(1894)年にかけて北前船主・西出孫左衛門と西谷庄八によって建設。
鯨を載せた屋根、中庭を囲むように建てられているのが特徴。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～

江戸時代、経済の大動脈であった北海道・東北・北陸を結ぶ西廻り航路。この航路を利用した商船は「北前船」と呼ばれ、船主自身が寄港地で仕入れた様々な商品を、別の寄港地で販売し利益をあげ、「動く総合商社」とも形容されます。地域の文化をも運びながら、一度の航海で莫大な富を生み、港や周辺集落にも繁栄をもたらした北前船。日本海の荒波を越え、男たちは一攫千金を夢見たのです。



KITAMAEBUNE in OTARU

航海の安全を神仏の庇護に求めて

小樽 住吉神社奉納物

北前船主らは、航海の安全を祈願して様々な物を奉納。
海にまつわる住吉神社には、第一鳥居が寄進されている。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～

江戸時代、経済の大動脈であった北海道・東北・北陸を結ぶ西廻り航路。この航路を利用した商船は「北前船」と呼ばれ、船主自身が寄港地で仕入れた様々な商品を、別の寄港地で販売し利益をあげ、「動く総合商社」とも形容されます。地域の文化をも運びながら、一度の航海で莫大な富を生み、港や周辺集落にも繁栄をもたらした北前船。日本海の荒波を越え、男たちは一攫千金を夢見たのです。



日本遺産

KITAMAEBUNE in OTARU



小樽

船絵馬群 (恵美須神社、龍徳寺金比羅殿)

航海の安全を祈願して寄港地の神社などに奉納された船絵馬。
精緻に描写された船と、奉納者の名前や奉納年などが記されている。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～

江戸時代、経済の大動脈であった北海道・東北・北陸を結ぶ西廻り航路。この航路を利用した商船は「北前船」と呼ばれ、船主自身が寄港地で仕入れた様々な商品を、別の寄港地で販売し利益をあげ、「動く総合商社」とも形容されます。地域の文化をも運びながら、一度の航海で莫大な富を生み、港や周辺集落にも繁栄をもたらした北前船。日本海の荒波を越え、男たちは一攫千金を夢見たのです。

